

科学技術史、メディア技術史が専門、近年も意欲的に研究を進め、2008年に知的財産権に関連する著書（宮下晋吉著『模倣から「科学大国」へ—19世紀ドイツにおける科学と技術の社会史』（世界思想社））を刊行、60才を過ぎてなお意気盛ん。今期の専門演習は、標記のテーマを取り上げるので、現代社会とメディアの今日的課題に積極的に挑戦しようとする人を歓迎したい。

1. 専門演習の目標

メディアに関する諸問題や知のありかたに高い識見を持ち、それをふまえてメディアなど社会のさまざまな分野で活躍する人材の育成。

2. 専門演習で扱う課題と内容

iPadも発売され、今年は「電子書籍元年」という。近年「新聞がなくなる日」、「紙の本が亡びるとき」、「グーグルベルクの時代」が喧伝されるなど活字メディア、ないし紙媒体のメディアのこれまでありかたが大きく揺らいでいることは事実であろう。新聞、活字本（出版）だけではない。「ネットがテレビを飲み込む日」、「テレビジョンクライシス」など、テレビ・ラジオ等「電子メディアの時代」を代表する従来のマスメディアも含めて、100年に一度の変革の大波に直面していると見るべきなのかもしれない。「10年後新聞とテレビはこうなる」など、在来メディアの今後を占う議論も盛んである。

しかし、変革期だからこそメディア論の根本が問われる。最近水越伸氏も「技術決定論」とあれだけ批判していたマクルーハンを持ち上げている。「ネット社会」はインターネット等の技術革新の結果であるから、技術と社会の関わりを明らかにする技術論が重要になると私は思う。そこで今年は、こうした「ネット社会」とメディア変革の諸問題に、正面から取り組むこととしたい。

3. 授業の進め方・内容

以下、主な具体的テーマ例を示す。

- (1) 書籍の電子化と知のありかた：「書物論—ブックとは何か」、「電子書籍とは—電子活字から電子ブックへ」、「iPad対Kindle、日本は？」、「電子図書館のゆくえ」
- (2) ネット社会と放送：「インターネットと公共放送—BBC改革のゆくえ」

- (3) 動画コンテンツと著作権：「ネット環境下の著作権とフェアユース」、「Youtubeにみる著作権とこれからのネットコンテンツ」、「ファイル共有ソフトや動画投稿サイトと著作権制度は共存するか」
- (4) 音楽と音楽著作権をめぐって：「デジタル化時代の音楽著作権論」、「リミックス論」
- (5) ネット上の「集合知」をめぐって、その他：「群衆の総意(the wisdom of crowds)—あやつられるネットワーク」、「Googleの発達と文化の多様性」、「フリー百科事典『Wikipedia』」は『集合知』の理想形か？、「ゲームと著作権」、「パロディ論」

4. 必要とする知識

とくになし。

5. 関連する分野・科目・知識

私の担当科目、「メディア技術史」と「科学と技術の歴史」は必須。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

宮下晋吉著『模倣から「科学大国」へ—19世紀ドイツにおける科学と技術の社会史』（世界思想社）、名和小太郎著『デジタル著作権—二重標準の時代へ』（みすず書房）、同『著作権2.0—ウェブ時代の文化発展をめざして』（NTT出版）

7. 独自に付加する選考方法

面接を重視する。

8. 受講生に望むこと

とくに社会派的正義感をもった幅広い人間性と社会性—そういう力を一層伸ばせるゼミでありたい。